

★ アソシエイト通信 Vol.23 ★

2011年11月11日(金)に羽田空港第1旅客ターミナル6階ギャラクシーホールにて『平成23年度臨海部活性化シンポジウム 川崎臨海部の挑戦 新しい時代の国際競争力～産業空洞化を克服するアジアダイナミズムへの接合～』が開催されました。このシンポジウムは、平成14年から川崎の臨海部における最新動向を広く発信するために開催されており、今回で11回目を迎えるそうです。今回は一部ではございますが、内容についてご報告させていただきます。

【開催概要】

- 開催日時：2011年11月11日(金) 14:00～18:30 (交流会含む)
- 会場：羽田空港第1旅客ターミナル6階 ギャラクシーホール
- 主催：川崎市(川崎臨海部再生リエゾン推進協議会)、
NPO 法人産業・環境創造リエゾンセンター
- 後援：独立行政法人都市再生機構、川崎商工会議所、
財団法人川崎市産業振興財団、経済産業省



基調講演

【プログラム】

- 14:00 開会挨拶 川崎市長 阿部孝夫
- 14:05 来賓挨拶 川崎商工会議所 会頭 山田長満
- 14:10 基調講演 「3.11からの日本創生一鍵を握る対アジア戦略」
財団法人日本総合研究所 理事長
(川崎市先端科学成長戦略アドバイザー) 寺島実郎
- 15:15 パネルディスカッション「アジアにおける新しい協調関係の構築」
<パネラー>
台日商務交流協進会 副理事長 董焯熙(トウケイキ)
法務法人(有)和友 弁護士・弁理士 朴寅東(パクインドン)
JFE エンジニアリング株式会社
常務執行役員 海外事業本部副本部長 露口哲男
川崎市長 阿部孝夫
<モデレーター>
信金中央金庫 地域・中小企業研究所 所長
学校法人昭和女子大学 理事長 平尾光司
- 16:40 閉会挨拶 NPO 法人産業・環境創造リエゾンセンター 理事
(株)浜銀総合研究所 代表取締役社長) 太田嘉雄
以上、敬称略
- 17:00 交流会(18:30 終了)



パネルディスカッション



交流会

■川崎臨海部再生リエゾン推進協議会について

21世紀の新たな産業集積の促進と新たな街づくりをテーマとした「川崎臨海部再生リエゾン研究会」での成果を踏まえ、地元産業界、行政、学識者、地域代表の産学公民が連携し「川崎臨海部再生プログラム」の実践的な推進を目指す組織として平成15年9月に設立されました。

詳細：<http://www.city.kawasaki.jp/28/28kogyo/home/liaison/liaison.htm>

■NPO 法人産業・環境創造リエゾンセンターについて

川崎臨海部立地の有志企業メンバーなどが発起して、NPO 法人として平成16年8月に設立されました。産官学、市民との連携のプラットフォーム機能を発揮し、産業の活性化や環境・エネルギー問題の解決に貢献する活動を推進しています。

詳細：<http://www.lcie-npo.jp/>

【感想】

基調講演は、「川崎は徳川幕府の天領化時代、治安や水軍等を強化していた地域だったが、倒幕により薩長連合から目を付けられてしまった経緯があり、昔からこの地域には自立・自尊の精神が宿っている。また羽田空港の国際化に伴い、大中華圏に近接しやすいロケーションを活かして、ライフサイエンスを軸に日本がアジアの中でどう光を放って行くことが出来るか、まさにその挑戦が出来る場所である」という内容でした。

その後のパネルディスカッションでは、実際に最先端の分野で日本とアジア企業との間で分業体制を構築している企業もあり、「日本の素材や部品等の高付加価値はまだまだ競争力があるから、それをどうアジアに結び付けていくか。それはその中心を担っている川崎臨海部の動きにかかっている」とのことでした。

最後に阿部市長から「今年9月30日に神奈川県知事、横浜市長、川崎市長が国際戦略総合特区の指定を共同申請しました。具体的には、①殿町区域(キングスカイフロントを含む)、②末広区域、③福浦区域、④みなとみらい区域を結び、京浜臨海部の4つの優位性を活かして、①再生医療、②がん・生活習慣病、③公衆衛生・予防医学の3つの重点分野において国際戦略拠点形成を目指します」というお話を頂きました。今後の日本活性化、さらにはアジアとの協調については、川崎臨海部の展開が鍵を握りそうです。

【お問い合わせ先】(株)TNP パートナース、(株)TNP オンザロード TEL: 045-470-8088 FAX: 045-470-8090
井汲 / 吉岡